

『信州上田藩 宝暦一揆・異聞 清水半平と橋爪玄惟』の出版

宮原 豊 (9組)

8月末、アマゾン(MyISBN)から表記の本を上梓します。

https://www.amazon.co.jp/%E6%9C%AC-%E5%AE%AE%E5%8E%9F-%E8%B1%8A/s?rh=n%3A465392%2Cp_27%3A%E5%AE%AE%E5%8E%9F+%E8%B1%8A

この個人出版の仕組みは、完全原稿をデジタル化して PDF 登録すれば簡単に出版できるという著者にとっては誠に優れたものです。出版に関わる費用は登録料 4,980 円のみです。本の注文は 1 冊から可能で、オーダーを受けてから印刷するので流通の段階において在庫を抱える必要がなく、アマゾンのネットを使って広告・販売することが可能です。ただし、表紙は正確な採寸が必要で、そのためにプロのデザイナーに依頼、それに 2 万円ほどかかりましたが、後は自助努力、慣れない縦書きワープロに向かって奮闘しました。最終原稿登録後にアマゾンとしての審査がありましたが、これは SNS 等で問題になるような公序良俗に反するようなワードが含まれていないか、著作権上の問題がないかという審査ですから、編集上の責任は全て著者自身が負うこととなります。

本の販売に必要な ISBN (国際標準図書番号) が取得できるのも大きなメリットで、著作権は著者に所属するので、いつでも MyISBN 経由の出版を止めて他の出版社に変更することも可能です。

ただ、唯一のデメリットは、値段設定が 1 ページあたり 10 円と決められていることです。

A4、B5、A5・・・と本のサイズ、行数、字数等を工夫しても、280 ページになってしまいましたので、販売価格は 2,800 円+税です。こんな金額を出して素人の書いた本を買うような奇人な人もいないのではないかと思います。コピー代と考えればリーズナブルなのかと思います。

アマゾンは 2,800 円の中から紙代、印刷代、送料、利益を出す仕組みですから、飲み代をちょっと減らして 3,080 円をご負担いただきご笑読いただければ幸いです。読後に間違いの訂正やご意見をいただければ、なお幸いです。今後の参考にさせていただきます。

本の概要は次のとおりです。

宝暦 11 年(1761)巳年の 12 月 11 日の夜、上田藩浦野組夫神村 (おかみむら・現青木村夫神) で一揆の烽火が上がると、一夜にして加勢する百姓がふくれあがり、夜明け前に上田城下に押し入り大手門の木戸を破り城代家老の屋敷門前に迫った。その後、12 日には上田藩始まって以来の全領惣一揆に藩はなす術もなく、城下は大混乱に陥った。その総数は川西から 7 千、川東から 6 千、合わせて 1 万 3 千人に及んだと言われる。

城代家老の岡部九郎兵衛は門前で騒然としていた一揆の群衆の前におもむろに現れ、一揆の首謀者に願意を問うた。岡部は当年 29 歳ながらその日頃の立ち居振る舞いから藩臣か

らも町民・百姓からも一目置かれていた。岡部は、一揆の首謀者として自ら名乗った夫神村百姓・清水半平の18項目に及び願意を一つ一つ丁寧に聴き取り、それを祐筆が書き留めた。藩主が江戸にいたために城代家老の一存で裁決はできないと、要求を携えて岡部は江戸に発った。

藩政に対する国元と江戸詰めとの間の認識の相違は大きく、江戸屋敷では江戸家老と城代家老との間で激しい問答が繰り返されたが、藩主・松平忠順は惣一揆の規模の大きさに事態の深刻さを理解し、岡部の必死の説得に応じ、岡部は国元での事態収拾を一任され上田に戻った。

その後、百姓の訴えはほとんど要求どおりに実現され、一揆は百姓側の大勝利であった。一揆発生から1年4か月後、首謀者二人（浦野組夫神村の組頭・中沢浅之丞と同百姓・清水半平）が処刑され、また浦野組の村々の指導者たちが永牢、閉門、追放等に処せられた。しかし、一揆の規模の大きさに比して処分は極めて寛大なものであり、「上田藩・宝暦一揆」は後世において「天晴れ見事な一揆であった」と評せられている。

この宝暦騒動は、江戸時代に全国で多発した百姓一揆の中では、比較的多くの史資料が残されていると言われる。一揆発生から裁き・処刑までの顛末が後世によく語り継がれているとは言うものの、解明されない多くの疑問点が残されている。

その中でも、浦野組中村の医師・橋爪玄惟の存在は興味深い。様々な状況証拠から宝暦一揆への関与が極めて濃厚どころか、宝暦一揆の真の首謀者であった可能性が高いと「推論」されながらも、確実な史資料は未発見なのだ。玄惟は若い頃から上田藩の儒学者・安原貞平に師事、10代半ばに江戸に遊学し、騒動の時は30歳であった。それが騒動直後に再び医術修行のために江戸に旅立っているのだが、それは貞平の愛弟子・玄惟を事件捜査から遠ざけるための差し金だったのだろうか。玄惟は中村において家塾講師、剣道教授、医者として101歳の天寿を全うするが、もし宝暦騒動に係わっていたとしたら、処刑された半平や浅之丞との関係はどのようなもので、師・安原貞平の温情によりただ余生をおめおめと長らえたのであろうか。

以上、この本は歴史的背景に基づきながら、歴史書ではなく創作7~8割の小説です。

信州上田藩 宝暦一揆・異聞
清水半平と橋爪玄惟



宮原 豊

失われた30年と言われる長い経済停滞と雇用不安、パンデミック、強権国家ロシアのウクライナ侵攻、東アジアの軍事・安全保障の変化によってもたらされる将来に対する不安感から、人々は「今だけ、金だけ、自分だけ」に走りがちです。そのような中で、「宝暦一揆」に関わった人々の心情から、日本人の利他的で潔い生き様、公とは何か、社会とは何か・・・古来日本人はどのように生きたのかを思い起こして貰えれば幸いです。

(2023年8月14日記)